

## 熟練者の知見をシステムへ 一品物事業の効率化と DXの推進

一品物製造における業務の属人化を解消するため、業務の標準化を推進。熟練者のノウハウをAIに学習させ、生産性の向上と持続可能な成長を目指す仕組みを構築した。また、RPAの導入で事務作業を効率化した。

▼  
取り組み内容

**Step 1**  
現状把握

社長や社員へのヒアリングを通じて一品物製造の現状を分析。業務の属人化や非効率な工程を抽出した。

**Step 2**  
施策策定

業務の標準化に向け、暗黙知を形式知化する業務手順書の作成や、IT活用による改善施策を策定した。

**Step 3**  
施策実現

AIによる発注支援アプリの開発やRPAの導入を推進。事務作業の自動化により現場の負担を大幅に軽減。

**Step 4**  
施策展開

既存社員へのナレッジ移転と横展開を検討。プログラム終了後も持続的に運用できる体制を整備した。

受入企業

### 高鍬金庫株式会社

代表取締役 高鍬 友一 さん

1917年に農機具の製造から創業。時代の変化に合わせ、葺や金庫の扉の生産から建材製造へと事業をシフトしてきた。現在は建設機械や産業機械の精密板金加工を主軸とし、量産品から難度の高い一品物まで、柔軟に対応できる技術力と高品質を強みとする。長尺加工を得意とし、その製造技術は多方面から高く評価されている。

研究員

西内 淳一 さん

大阪府出身。新卒で大手総合電機メーカーに入社し、39年間勤務。社内IT部門のほか、海外担当として、現地駐在を含めグローバルに活動する。欧州の地域統括法人ではIT部門長を務めた。63歳の時にリカレント教育として、大学院に進学すると共に新たなキャリアを築くため航空会社に転職。航空機部材の在庫・物流管理に従事した。

共創型企業・人材展開プログラム 事例

CASE:

一品物事業の拡大へ  
ITによる標準化と  
業務効率化の実現

取り組みの成果  
・  
今後の取り組み

- ・一品物製造の前工程を標準化し、AIによる業務支援を導入。熟練者の暗黙知を形式知化することで、経験の浅い社員でも高度な判断が可能な体制を構築。今後は精度の向上と対象領域の拡大を目指す。
- ・RPAの導入により、注文入力等の定型事務作業を自動化。作業時間を約5割削減することに成功した。捻出された時間を高付加価値な判断業務に充てることで、組織全体の生産性向上を実現した。
- ・今後は社内で研究員をサポートしてきた社員がノウハウを継承し、取り組みをブラッシュアップする。

企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・一品物事業の拡大を目指す中で、業務オペレーションの属人化と非効率さが課題でしたが、社内にIT化を推進できる人材、ノウハウがありませんでした。そんなとき、CCIさんから本プログラムを紹介され、地方の人材不足を補完する良いアプローチだと感じ参加しました。

評価（成果・社内変化など）

- ・西内さんは週4日常駐し、社員と同じ目線で真摯に取り組んでくれました。人柄も良く、当社の社風を尊重して溶け込んでくれたおかげで、現場とのコミュニケーションも非常にスムーズでした。
- ・RPAの導入により、これまで手作業だった業務が自動化され、作業時間が約半分に削減されました。社員の意識も変わり、自分の時間に余裕が生まれたことで、新たな改善にチャレンジする意欲が出てきたことは大きな収穫です。
- ・手つかずだったIT化の第一歩を、短期間で具体的な形にしてくれたことに感謝しています。外部人材、特に大学の研究員という立場が、社員にとっての安心感や本音の対話につながったと感じています。

今後の関わり方

- ・今回構築した仕組みを定着させ、横展開していくため、担当社員へノウハウを継承してもらいました。西内さんには今後もリモート等でサポートをいただきながら、社内で自律的に改善を推進できる体制を整え、一品物事業のさらなる拡大という経営目標の達成を目指します。

研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・自ら考案した「移住」×「学び」メソッドの実現を模索する中で、本プログラムを知りました。およそ110年の歴史を持ちながら、設備投資や多様な人材活用に積極的な高銚金庫様に成長の気概を感じ、自身のIT知見を役立てたいと考え、応募しました。

評価（取り組み・生活）

- ・現場の皆さんに丁寧にヒアリングを行い、暗黙知を形式知化することに注力しました。AIによる発注支援やRPA導入を半年という短期間で実現できたのは、高銚社長と密な対話できたからです。単なるコンサルティングではなく、常駐して共に課題へ取り組むスタイルが信頼構築につながったと感じています。
- ・金沢大学での学びや多様な背景を持つ他の研究員との交流は、自身の研究能力向上や新たな視点を獲得するための大きな刺激となりました。
- ・この半年間で移住を実体験できたことは、自身のキャリアにとっても価値ある経験です。雪国での暮らしは初めてで、除雪など大変な面もありましたが、東京とは異なる環境での生活は非常に有意義でした。

今後の展望

- ・プログラム終了後は元の所属企業に復職しますが、石川での縁を大切に、必要に応じて高銚金庫様のサポートを継続します。また、さらなる自己成長を目指し、金沢大学大学院など、博士後期課程への進学を模索するつもりです。